

平成 28 年度新潟県支部同窓会総会の開催報告

平成 28 年 7 月 9 日(土)、新潟市の ANA クラウンプラザホテル新潟で、新潟県支部同窓会定例総会を開催しました。当日は会員 39 名の出席があり、大学から来賓として、獣医学部病理学教室の宇根有美先生のご臨席をいただきました。

総会に先立ち、故早川秀男先生 (S24 年卒)、高橋英昭先生(S44 年卒)、小川哲明先生 (S59 年卒) のご冥福を祈り黙禱を献げました。

総会は、岡澤武夫会長(S35 卒)の挨拶に始まり、会長を議長として議案が審議され、平成 27 年度事業報告及び収支決算並びに平成 28 年度事業計画 (案) 及び収支予算(案)は、いずれも原案どおり承認されました。今年は役員改選期で、会長、副会長が交替し、新役員体制となりました。会長には、小野島学先生(S50 年卒)が選任され、副会長に小嶋佳彦先生(S53 年卒)、加藤博幸先生(S54 年卒)、奥田雄二先生(S57 年環境保健学科卒)の 3 名が選任されました。他にも新たな役員が選任され、長年にわたり会長としてご尽力された岡澤武夫先生は、顧問に選任されました。総会の終わりに、岡澤武夫先生には、本部同窓会から感謝状と粗品が来賓の宇根先生から授与されました。

総会の後、会員レポートとして、永松亮一先生 (S51 年卒) から『獣医師及び医療人が是非知って欲しい事！いろんな方々が「殺処分ゼロ」に向けて頑張ってますよ』として、報告がありました。最後にミニテストがあって、答案が回収されました。

次に、宇根先生から「エキゾチックアニマルと野生動物の感染症」と題して講演がありました。アメリカモモンガの輸入後に発生したヒトのレプトスピラ症について、2 人の感染者が発生した事例を時系列で解説していただきました。また、シマリスのサルモネラ症、ハムスターやリスザルの *Pasteurella multocida* による出血性敗血症、プレーリードッグのサル痘感染事例、牛痘のペットからヒトへの感染、ハリネズミの白癬菌のヒトへの感染など、エキゾチックアニマルが保有していた人獣共通感染症の病原体についてお話しがありました。次に、両生類の感染症の話です。ツボカビ病は OIE の監視疾病となっていて、日本のカエルは抵抗性があることではなく、多様性があることから、日本が起源ではないかと考えられていることや、ラナウイルスの両生類への感染が日本で急速に広がっていて、アマガエル、ウシガエルの大量死に関係することがあるとのこと。これらは両生類の感染症であるが、両生類も地球上の生態系の一つであり、One Health の考え方から、これらの感染症の調査・対策を進める必要があると締めくくられました。短い時間でしたが、息をのむ間もなく、非常に興味深い話の連続でした。

懇親会は、小松原先生(S24 卒)の乾杯で始まりしました。永松先生のテストの採点の結果、優秀者に動物愛護協会の殺処分ゼロを目指してのチャリティー活動の T シャツが賞品として授与されました。宇根先生にも T シャツがプレゼントされ、懇親会が終わるまで、ずっと T シャツを着ていただきました。とてもお似合いです。酔いが回れば「寮歌」、「記念祭の歌」そして、毎年恒例の早福昌司先生(S34 卒)の数え歌です。賑やかな、ひと時でした。

新潟県支部は総会に併せて毎年「新潟県同窓会報」を発行しています。今回で第 45 号となりました。会報への投稿として、「一枚の写真から」というテーマで原稿を募集しています。思い出の一枚が必ずあると思いますので、会員の皆様からの投稿をお待ちしています。

事務局 田村 務 (S58 卒)

